

光化学オキシダント調査検討会開催要綱

1. 検討会の目的

光化学オキシダント(Ox)については、その原因である二酸化窒素及び揮発性有機化合物(VOC)の削減対策が実施されたにも関わらず、昼間の日最高1時間値の漸増傾向や注意報発令地域の広域化が見られ、また、環境基準達成率も一般局で0.1%、自排局で0.0%(平成21年度)と極めて低い水準である。

このことから、今後、光化学オキシダントの削減に資するために、平成19年度に設置した「光化学オキシダント・対流圏オゾン検討会(中間報告)」及び昨年度に設置した「次期VOC対策あり方ワーキング」での知見及び意見を踏まえ、新たに「光化学オキシダント調査検討会」を設置し、揮発性有機化合物(VOC)対策を含むこれまでの施策の進捗確認を行うとともに、新たな科学的知見を収集し、今後必要とされる対策を見据えた調査研究のあり方について検討するものである。

2. 検討会の運営

(1) 構成及び運営

- ① 検討会は別紙1の学識経験者等により構成する。
- ② 検討会に座長を置き、座長は事務局の指名により定める。座長は会議の議事運営を行う。座長が検討会に出席できない場合は、座長があらかじめ指名する委員がその職務を代行することができる。
- ③ 検討会の事務局を環境省水・大気環境局大気環境課に置く。

(2) 議事等の公開

- ① 検討会の議事及び配布資料は、原則として公開する。ただし、公開することにより公正かつ中立的な審議に著しい支障を及ぼすおそれのある場合又は特定の者に不当な利益若しくは不利益をもたらすおそれのある場合は、座長はその理由を明らかにした上で、検討会の議事又は配布資料を非公開とすることができる。
- ② 公開した検討会の議事要旨は、検討会終了後に作成し、公開する。

(3) その他

座長は、上記に規定するもののほか、検討会の運営に関し必要な事項を定めることができるものとする。

3. 検討事項

(1) 現状分析及び現在までの取組みの進捗確認及び評価について

①現状分析

- ・光化学オキシダント濃度及び窒素酸化物等前駆物質の濃度、VOC 総排出量に関する現状分析

②「光化学オキシダント・対流圏オゾン検討会（中間報告）」に示された課題に対する取組みの進捗確認及び評価

(2) 新たな知見の収集及び課題について

①光化学オキシダントに関する新たな知見の収集（定性的/定量的）

②課題の洗い出し

③検討手法について

- ・検討手法の明確化
- ・今後の光化学オキシダント対策を見据えた調査・研究のあり方

(3) その他

①光化学オキシダント濃度に係る海外動向調査

②海外の光化学オキシダント対策事例調査

(別紙1)

光化学オキシダント調査検討会委員

氏名	所属	職名
秋元 肇	財団法人 日本環境衛生センター アジア大気汚染研究センター	所長
安藤 研司	一般社団法人 日本化学工業協会 環境安全部	部長
石井 康一郎	財団法人 東京都環境整備公社 東京都環境科学研究所	主任研究員
板野 泰之	大阪市立環境科学研究所 調査研究課	研究主任
井上 和也	独立行政法人 産業技術総合研究所 安全科学研究部門 環境暴露モデリンググループ	研究員
指宿 堯嗣	社団法人 産業環境管理協会	常務理事
岩崎 好陽	公益社団法人 におい・かおり環境協会	会長
浦野 紘平	横浜国立大学 大学院環境情報研究院	特認教授
大原 利眞	独立行政法人 国立環境研究所 地域環境研究センター	センター長
金谷 有剛	独立行政法人 海洋研究開発機構 地球環境変動領域 物質循環研究プログラム 大気組成研究チーム	チームリーダー
坂本 和彦	埼玉県環境科学国際センター (埼玉大学大学院 理工学研究科)	総長 (教授)
下原 孝章	福岡県保健環境研究所	大気課長
竹内 庸夫	埼玉県環境科学国際センター研究推進室	副室長
土屋 徳之	JX 日鉱日石エネルギー株式会社 社会環境安全部	チーフスタッフ
橋本 光正	社団法人 日本塗料工業会	専務理事
向井 人史	独立行政法人 国立環境研究所 地球環境研究センター	副センター長
若松 伸司	愛媛大学 農学部	教授

(五十音順 敬称略)